

大塚切れ発生の高槻市で100年シンポジウムを開催 ～堤防決壊から100年の”淀川宣言”～

大正6年に発生した淀川大塚切れ(高槻市大塚の堤防決壊)から今年で100年目を迎え、この節目の年に、大塚切れ以降、先人の取り組んだ治水、水防対策の苦勞に思いを馳せ、今日まで淀川本川では大規模な破堤氾濫が発生していないことに感謝するとともに、改めて洪水に備える意識を高揚させることを目的に関係機関が連携した取組を行うにあたり、高槻市にてシンポジウムを開催しました。

またシンポジウムと並行し、大塚切れ同日と同じ時間に決壊現場における式典や流域の首長で今後の淀川流域のあり方に向けた淀川サミットを開催しました。

現場式典 概要

- 日時：平成29年10月1日(日) 8:30~9:00
- 参加者：高槻市長、整備局長、他12名
- 場所：淀川右岸大塚(高槻市)
- 主催：高槻市



整備局長の挨拶



これまでの治水事業について所長から説明



・大塚切れ決壊箇所において、先人の取り組んだ治水、水防対策のありがたみを感じ、これからの流域の発展にむけて、高槻市長が決意表明を実施。

淀川サミット 概要

- 日時：平成29年10月1日(日) 10:30~12:30
- 参加者：2府2県10市(市長3、副市長7)
- 場所：高槻市現代劇場(高槻市)
- 主催：大塚切れ100年実行委員会、高槻市



・近年の出水を踏まえ、河川整備や水防災対策について、地域が共通の理解に立ちながら議論し、洪水に備える意識を向上。



・大塚切れをはじめとする、過去の水害や教訓を後世に継承すると共に、淀川流域の将来のあり方について、上下流・左右岸が一体となった議論を継続することを示した『淀川宣言』を発表。

大塚切れ100年シンポジウム 概要

- 日時：平成29年10月1日(日) 13:30~16:30
- 参加者：約700名
- 場所：高槻市現代劇場(高槻市)
- 主催：大塚切れ100年実行委員会、高槻市



・パネルディスカッション
平成大塚切れ、大規模水害から命を守るためにはなにが必要か、討論。

屋外イベント会場

- 災害時に活躍する車、スカイデッキ、水中歩行、防災アプリを体験できるイベントを併催。
- 参加者：245人

